

XC4466

## Reference 3

### CLEANING SWAB FOR NOSTRIL

**Publication number:** JP2003339767 (A)

**Publication date:** 2003-12-02

**Inventor(s):** OMAE MASARU +

**Applicant(s):** SUZUKI YUSHI KOGYO KK +

**Classification:**

- International: **A45D34/04; A45D44/00; A61F13/36; A61F13/38; A45D34/04; A45D44/00; A61F13/36; A61F13/38; (IPC1-7): A61F13/36; A45D34/04; A45D44/00**

- European:

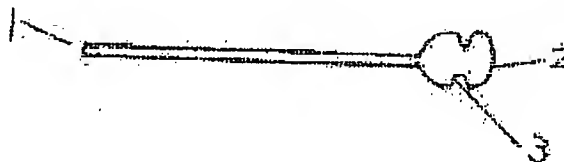
**Application number:** JP20020186892 20020523

**Priority number(s):** JP20020186892 20020523

#### Abstract of JP 2003339767 (A)

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a cleaning swab for the nostril which wipes off pollen or dust. ;

**SOLUTION:** The cleaning swab for the nostril has a cotton ball 2 fitted to the fore end of a stick 1. The cotton ball has a ring-shaped recess like a groove in the circumference and is dampened with a cleaning liquid. ; COPYRIGHT: (C)2004,JPO



Xc4466 3

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-339767

(P2003-339767A)

(43) 公開日 平成15年12月2日 (2003. 12. 2)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テ-ミ-ト* (参考)
A 6 1 F 13/36		A 4 5 D 34/04	5 1 0 E 4 C 1 6 7
A 4 5 D 34/04	5 1 0	44/00	Z
44/00		A 6 1 M 35/00	X

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 2 頁)

(21) 出願番号 特願2002-186892 (P2002-186892)

(22) 出願日 平成14年5月23日 (2002. 5. 23)

(71) 出願人 502230826

鈴木油脂工業株式会社

大阪府大阪市東淀川区井高野 2-1-37

(72) 発明者 大前 勝

京都府亀岡市篠町浄法寺土取 9-1 パスト

ラル コート202

Fターム (参考) 4C167 AA63 BB02 BB23 BB40 CC01

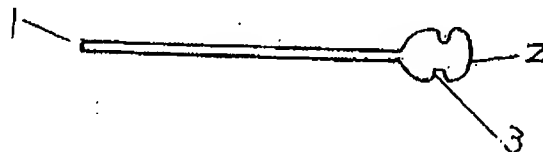
CC15 GG02 GG11 GG16

(54) 【発明の名称】 鼻孔用洗浄綿棒

(57) 【要約】

【課題】 花粉やホコリを拭き取る鼻孔用洗浄綿棒を提供する。

【解決手段】 本発明の鼻孔用洗浄綿棒は、軸棒1の先端に綿球2を取り付け、周囲に溝のようなリング状のくぼみ3を有し、その綿球に洗浄液を湿らせたことを特徴とする。



(2)

特開2003-339767

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 軸棒の先端に溝のようなリング状のくぼみを有する綿球を取り付け、その綿球に洗浄液を含浸させたことを特徴とする鼻孔用洗浄綿棒。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【従来の技術】 従来鼻用綿棒としては、耳用で使用している綿球を少し大きくしたものが、耳鼻兼用で売られている。

【0002】

【発明が解決しようとする課題】 しかし従来のものでは、花粉やホコリの拭き取り効果が少ないため、水で綿棒を濡らしたり唾液を付けたりして使用していた。この発明では、綿球に洗浄液を湿らせ、尚効果を出すため綿球の中心部分に溝のようなくぼみを入れ拭き取り易くしたものである。

【0003】

【課題を解決するための手段】 本発明の鼻孔用洗浄綿棒は、軸棒の先端に綿球を取り付け、周囲に溝のようなリング状のくぼみを有し、その綿球に洗浄液を湿らせたことを特徴とする。

【0004】 本発明で用いる洗浄液としては、消毒液等の薬液の内に清涼感のあるメントールを含有するのが好ましい。含水量としては綿球の乾燥重量に対し80%位の水分率とする。

【0005】

【発明実施の形態】 以下図面を用いて本発明の説明をする。図1に示すように本発明の鼻孔用洗浄綿棒は、軸棒の先端1に綿球2を取り付け、周囲に溝のようなリング状のくぼみ3を有し、その綿球に洗浄液を湿らせたもの

である。軸棒は合成樹脂製で直径0.2cm長さ8cmのものを用いた、綿球2はコットン製で直径0.9cm長さ2cmの大きさとし綿球の溝3は、リング状の深さ0.2cmにした。この綿球2には、メントール及びキシリトール・グリセリンを含有した洗浄液0.5mlを含浸させた。図2は本発明の包装形態の一例を表示するもので、図2において4は密封したアルミフィルムである。図3は1個の包装形態を開封したものの一例である。

10 【0006】

【発明の効果】 この発明の鼻孔用洗浄綿棒は上記の通り、軸棒の先端に取り付けた綿球に洗浄液を湿らせ、かつ綿球の中心部に溝のようなくぼみを入れることにより、花粉やホコ리를拭き取ることを容易にしたものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の実施の形態の一例を示す説明図。

【図2】 本発明を密封包装したままの状態を示す説明図。

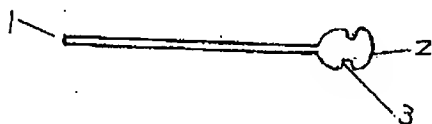
20 【図3】 本発明の1個を密封包装から開封した状態を示す説明図。

【符号の説明】

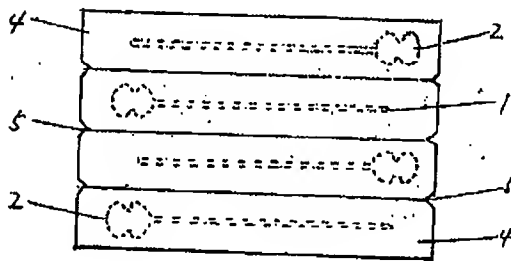
- 1 軸棒
- 2 綿球
- 3 溝のくぼみ
- 4 密封した包装紙
- 5 開封する場所
- 6 開封したアルミフィルム
- 7 1個を開封した中心部

30

【図1】



【図2】



【図3】

